

自主性の高い酪農後継者の育成

十勝農業改良普及センター十勝南部支所 地域係

1 活動対象及び概要

対象:新規参入者、実習生、研修生、農場従業員、酪農ヘルパー(20~30代)

南とかちアグリスクール受講生 40名 (農家件数 22件)

幕別町忠類 11名、大樹町 10名、広尾町 7名、管外 3名、関係機関 9名

☆ 数年間継続で受講登録する方もいます!

2 背景・ねらい

◇ 若手酪農家のスキルアップ

◇ 課題解決に向けた実践的研修

地域のリーダーとなる人材の育成

3 活動の経過

参加者への聞き取りやアンケート結果を元にカリキュラムを決めて年4回の講義を行った。飼料代や資材代が高騰する中でコスト削減に取り組む牧場が多く、食わせた分はしっかり生産に反映させたいと考え、今年度は「飼料効率UP! 採食量UP!!」をテーマとした。講義の他に受講生の牧場巡回を行い、実践的に取り組めるよう支援を行った。

○ R6年5月29日 令和6年度開校式(25名)

「暑熱時の疾病について」

講師:NOSAI南部支所 小島獣医師

「牛舎の換気について」

講師:普及センター 富永普職

「暑熱対策について」

講師:普及センター 福岡専普

※ 交流会 11名参加

交流会で人脈が広がり、
個人で牧場訪問する方も
いました!

○ 7月24日 第2回講座(座学20名、視察研修17名)

「施設構造と牛の行動について」

講師:普及センター 曾根係長

「幕別町忠類 黒坂牧場の視察研修」

講師:黒坂氏



座学研修の様子

○ 11月29日 第3回講座(16名)

「換気効率について」

講師:ソーワテクニカ 山本氏

うちの牧場も空気がよどむ
場所があるな・・・
改善方法を検討しよう



視察研修の様子

○ R7年2月 20日 閉校式(15名)

「飼料調製のポイント」

講師:普及センター 福岡専普

「飼料給与ポイントと牛の反応」

講師:普及センター 住野普指

※交流会 14名参加



交流会の様子

4 活動の成果

農場における改善項目の明確化(現況21%→目標25%→実績 50%) ※11/22戸

講義をとおして受講生の学習意欲が高まり、受講生が経営主に伝えきれない部分は普及員が牧場巡回により補足をすることで、実践的な取組に発展している。また、コロナ禍で地域のイベントが減った経緯があり、アグリスクールは同年代の農家が集まるコミュニケーションの場となっている。

(1) 講義を受けてすぐに実践



- ・ミストの欠点を発見！湿度が高い日は乳房炎が増える・・・講義数日後、すぐに換気扇掃除に取り組んだ！
普及員と経営主のやりとりを見て、優先順位とともに検討を重ねることで、経営主の合意がスムーズにとれるとわかった。



- ・講義を受講して、自分の担当エリアの換気が気になった。風向き・風速・温湿度を測定！
・換気は良好であることがわかった。空気がよみやすい場所も理解できた。

(2) 講義内容に限らず挑戦

以前のほ育ペン



- 数を増やし、1頭あたりのスペースを広くとった
- ・つなぎの搾乳牛舎にあったほ育ペンを外に移動させ、子牛の発育良好！！
- ・さらに、搾乳手順を見直したところ、バルクの体細胞が10万個/ml台に下がった！！



放牧地の植生調査を行い、追播を検討

- ・受講生の呼びかけで酪農ヘルパーの新人5名がアグリスクールに参加
- ・さらに酪農ヘルパー組合の研修に派生

「利用者訪問時の

長靴の消毒方法について」

(講師： 曾根係長)

E

5 今後の対応

座学で身につけた知識を実践に活かせるよう、牧場巡回を継続してサポートする。実践したことを受講生同士で情報共有し学習意欲を高められるように、交流会を開催する。

長期計画として、青年グループのプロジェクト活動を開始し、アグリフォーラムや酪青研などを通して成果を地域に波及できるように支援する。